

刊夕6九月六

常警每日新聞

定額 一月五拾圓 三月十五拾圓 半年三十拾圓 一年六十拾圓
 廣告料 五圓以上 二行 一圓 五行 五圓 十行 十圓 二十行 二十圓 三十行 三十圓 四十行 四十圓 五十行 五十圓 六十行 六十圓 七十行 七十圓 八十行 八十圓 九十行 九十圓 一百行 一百圓
 發行所 常警印刷局 電話 六二〇
 印刷所 常警印刷局 電話 六二〇

或る日の初戀

平田 志男

「木の上に鳥が止まつて居る。下田君英譯して見なさい。」
 優しく言つたが其の顔面神経がキビ／＼して居る、下田はこの時間の始めた頃から眠つてゐるのだ。
 もう午下りの陽はずつと傾いてこれで終ることに成つてゐる。

「はアッ……」

下田は立つた、眼は濡い膨れてゐる。彼は柔道の黒帯であるが英語は大嫌なので體格はガツチリしてゐるので勇敢に立つた。

「オンザー、バード、トマツチヨール。」
 それで勇敢に言つた、教師の顔面神経がガク／＼鳴つてる。皆は笑えぬので「ソフ、ソフ」と云ふ事になつて居た。

教室の何處へも明るくリンが渡つた。

下田は菅井の親友なのだ。其の日も肩をガチガチ打ち合つて歸つた。下田の凡ゆることを菅井が知つてたし下田も同様だつた。然し下田に一ツ有つた「シビ」これが何のことかわからなかつた。
 「菅井……シビ云ふなあ何んかな。」
 「シビ……教へてやるけエ、

女學生を見たらシビ云うて見いや——一本杉のそこへ行つたら云はうや。」
 「わきやうねエヤ」
 下田は柔道着を黒帯でゆわへて、自慢気にシツ背負てる。電車が停留所へ來ると振り落されたように女學生が降りる。此の街には二つの高女が在つて、其のどの女學生もシビを知つてゐる、シビは女學生間の暗號の一つであつた。幾組も幾組も雀のように女學生が通ると下田は無氣になつて喚いた

「シビシビ——シビシビ——」
 女達は笑はない黒帯が恐かつたから。二人が行き過ぎると、爆發したやうに笑ふて靜かに笑ふのだつた。そ

ノート

毛織物にアイロンをかけるのは着崩れを直す外に附着した害蟲の卵を死滅させる効がある

して一本杉の見える頃は女學生の見えぬ處だ。
 「何んぢや、教へや。」
 菅井は言ひよどんだが、自分がランニング選手なので安心した。

「教へてやらう——シビ云ふたら、女の×××のことや。」
 これで解つた、「打つちやる

どオー」
 期の時は横つ飛びに駆け出しちやまつた。下田は大きな聲を振動させて追つ駆け

「あら、良ツちゃん！」
 止まつた、水色のバラッソルに陽を授け流してクラッソル

——明日の献立——
 【朝】すまし汁—めうが、せん椎たけ
 【晝】むし肴—かれひ鹽むし小かぶ漬
 【晚】ぶた煮—こぼう、こんにやく

「ハア——鳥ちゃん。どこ——買物—フウ——」
 落ちて居る居られない、角を曲つて來た。下田は水色のバラッソルですぐ氣が着いた、彼は走るの遅いから、じき止まれた。

「おーい、左様なら——」
 それでも下田は歸らうとしない。鳥子は二人の顔を見較べて、けん想に瞳を濁した。

「なんしたん？」
 「なに、何んにもないんツウ、走りつくらをしたん。」
 「じゃ歸るぜ……フ、ッ」
 下田の心は、大きい聲に似て大きい、二ツ上の見さんが引返して行つた。

「いま學校をへたの。可笑しいのね眞平さん？」

土相 平町堂ノ前一番地
 高鳥易斷所
 野澤 定象

【一白】金談は不調なるも縁談はまとまるべし【二黒】も逢ぬ人より便り來るも今日なり【三碧】目上賢者と意見衝突の起る事あれば金銭取引と縁談に付ては目上に和順可し【四綠】金に縁ある日酒色の爲に家内に風波の起る事あれば女と酒に注意なさい【五黃】轉職轉移の起る日、古き事件でこた／＼せぬ様なさい【六白】離別か死別の愁話を聞く日なれば印形書附と火災に注意なさい【七赤】吉ではあるが骨折り功のなき頭の上らぬ日なれど忍耐すれば後日功が顯れ吉となる【八白】病氣怪我紛失盜難の心配の起る日なれば萬事に注意【九紫】大吉の日なり名譽揚るが縁科昇るか我が望事の達する緒を得るの大吉日

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)

大和田醫院

鹽豚
 肉蒲鉾

田町 三三三三屋

内小
 科兒
 科病柳花

應需院入
 院醫沼藤

町屋紺町平
 番七〇五話電

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町
 電一〇七



平町田町通電話六五六番
 石屋洋品店

魚食堂
 電話六三三三番

七
 八せん
 豆を

全外
 科科
 内小兒科

入院應需

醫學博士 渡部 義夫
 女 醫 渡部 きい子
 平町田町大通り (電話二七七番)
 渡部 外科

昨夜内務部長に

尼子橋陳情

來年度は是非にこの回答

一日七百臺の交通量

平町に於ける国道連結の二大橋たる尼子橋及び鎌田橋は其の腐朽甚だしく正に危険な状態を示して居り鎌田橋は夏井川の改修に伴つて當然改造される豫定となつて居るが尼子橋は最近土木監督所の調査に依つても一日七百臺の自動車が行き交する交通量を有して居るに拘らず

本年度の本縣橋梁改修費五十萬圓中にも繰り込まれず架け替えに就いては全然目鼻がついて居ないので此際事の急なる所以を訴へねばならぬと折好く昨夜赤土内務部長が渡邊、泉兩村の自力更生の状況を視察して湯本松泊館に投宿したので

好機會とし青沼町長を初め井上、萩原兩縣議及び土木委員の左記七氏
吉田(金) 松崎 會川
荒川 吉村 佐藤 川崎
舉つて午後八時松泊館に赤土内務部長を訪ね續々陳情せる結果縣に於いても架け替えの急務とすべきは充分熟知して居る處

であるから來年度の豫算に計上すべき様取り圖る旨の回答を得、更らに古川の改修、高麗橋修繕補助等に就いても

合せて諒解を得平町の土木事業に一道の光明を点じた由である

徴兵検査

郡下の日割と

適齡者の員數

石城郡下に於ける本年度徴兵検査は來る八月十九日より平第一小學校講堂に於て執行されるが人員は適齡者千六百二十五名、前年假決者八十一名、寄留者四百八名を加へ二千百十四名にて各町村の日割及び人員は左の如くである
(八月十九日)植田町六九、渡邊二五、泉六〇(二十日)入遠野四三、上遠野四九、川部三六、高久二七(二十一日)勿來八〇、錦四八、山田三三(二十二日)川前

内郷當選村議

昨日選舉の結果

石城郡内郷村の村議改選は昨日執行、有効四千二百五十五、無効六十七、棄権四百七十五にて開票の結果左記の如くである

一九七 永井茂次郎

一八一 三澤 義則

一七四 山崎 喜一

一七二 田中宇一郎

一七〇 島田 兼吉

一六〇 上原 四郎

一六〇 小松定次郎

一五三 佐川 芳松

一四八 新谷 彦資

一三八 小野 昇

一三八 齒部 末造

一三二 小島 元利

一二九 加藤 丈夫

一二九 廣瀬 貞

一一九 生田 常弘

一一九 草野三千雄

一一七 金原喜一郎

一一三 金澤 然喜

一一三 竹島 廉平

一一二 山崎佐市郎

一一二 大越勝之助

一一〇 鈴木 佐市

一一〇 猪狩喜平治

一〇八 石橋 弘毅

一〇四 馬日子之松

一〇一 志賀 留吉

一〇一 長谷川幾之助

九九 湊 慶三郎

九九 田中 義林

八九 宮本 留吉

八九 大友 寅吉

七〇 藤崎 房夫

六九 次 点

箕輪村議

當選者氏名

六七 四倉 昌勝
三四 佐藤 作藏
三一 渡邊 安喜

石城郡箕輪村々會議員選舉は去る七日行はれたが開票の結果左の如くである

二五 小沼 末藏

二〇 小沼三男哉

一九 遠藤 吉彌

一八 内藤 尚治

一八 高萩 國太

一八 新妻 一郎

一七 高橋 健吾

一七 高萩 庄平

一六 片寄 民彌

一六 阿部 友慶

同 遠藤 好江

同 吉田 政慶

次点

選舉戰...

初陣物語(三)

川崎 文治

◇前々から下心があれば多少の準備は整えて置くのであつたが、何しろ一夜作りの候補者様であるから我れながら面食つた事甚しい何んにしても『有権者名簿』がなければ戦争の見當がつかぬとあつて、夫れを買ひ込でから知り合ひの有権者を探し廻るといつ、騒ぎ

謝近火御見舞

昨夜近火の際は早速御馳付け消火に御盡力被下且つ御見舞を辱し御蔭を以つて類焼を免れ候段厚く御禮申上候
六月九日

丸本家具製作工場

丸本家具製作工場
電話二〇〇番

丸本家具製作工場
電話二〇〇番

◇他人の爲めの選舉運動は今迄にも幾回となく繰り返したが、自分自身の事になると全くのお先真ッ暗、何がなんだかサッパリ見當がつかず五里夢中の姿である。◇殊に世にいふ候補者の第一の資格として金がないおまけに親戚が少ない、それにどんなに自惚れて見ても人望ありとは思れない、云はば『ない』『盡し』の様な僕である。全く自分を反省して見ると依頼状にも書いた通り『足らざる器』であり、貧弱な候補者である事に違ひない、だからどうしても得票の計算となると悲觀的に傾かざるを得ない。◇夫れに選舉戰の渦中に飛び込んで見ると、豫想以上に醜態を極めたものである。未だ曾つて想像もしなかつた様な社會の醜い半面が種々な姿となつて、此の初陣の貧弱な候補者の身邊に向つて肉迫して來る。◇然るに、僕の當選を念願して區長を辭職して迄繁激的に立つた川角事務局長を始めとして、僕を圍繞して選舉戰の第一線に働く人々が何れも選舉ズレのして居ない正直な人達ばかりである、そしてアノ人も大丈夫だ、コノ人も心配がないと有権者名簿に片ツ端から〇を付ける。◇こんなに簡単に投票が獲れるものかどうか? 此人達の安心が高まるだけ、一層僕の不安は増して行つた。僕にうなる様に金でもあつて盛んに金を撒き散らすとか、御馳走政略でも用えたのであつたのなら、僕としても『アレだけにやつたんだから...』と安心が手傳つたかも知れない、然るに情けない哉『ない』『盡し』の候補者だけに一寸も先行きが解らず確信がつかない、恰も外科手術臺に乗せられた様な氣持ち...。そして眼の前で薄氣味悪くピカリピカリと光るメスの輝きに魂を冷しながら投票日の近づくの待たねばならなかつた。

社殿に崇嚴味

鐵北には大道路

平町の匡救事業

昨日の委員會で決定

平町議改選後初めての土木委員會は昨日午後二時より會議室にて開かれ縣から認定を得た匡救工事である柳町より

幕之内橋 に至る道路の擴張(工費三千六百圓)及び揚土臺子鐵倉神社裏道路の改修(工費四千五百圓)を本年度中に着工すべく決定した因に揚土臺の道路は昭和三年の町會に於て

縣社地内 に寄附する事の決議となつて居る爲め同決議に基づき道路の幅員二

落選候補が

開票場に押掛け

不公平を叫んで

暴行せんとて捕る

昨日執行された内郷村の村會議員選舉に立候補し六十九の得票で惜くも落選した藤崎房夫氏及び其の運動員十餘名は同夜十一時半頃開票場たる村役場に大暴行して押掛け選舉の不公平を叫び暴行に及ぼしたとので警戒中の平署員と小せり合ひを演じ藤崎氏外數名は檢束され目下平署で取調中であ

放火犯

懲役求刑

平町堤の内無職大和五平次(七〇)が家計困難の爲め保險料二千二百圓を大阪日本簡易火災保險會社より詐取せんとして去る四月十日隣家に放火した事件は昨日午後

二時より平町部に於て中島判事係り關口、竹内兩判事陪席、小林檢事立會、眞木辨護士列席の下に開廷され檢事より三年六月を求刑され之に對し眞木辯護士の減刑論あつて四時閉廷したが判決言渡しは来る十五日午前九時である

磐中野外演習 磐中第二學年生二百五十名は来る十六日大井川、庄司各教官指導の下に高野、關御井嶽方面に於て野外演習を行

空家から火

放火の説もある

去る六丁目の火災取調べ一段落をつけた許りの昨日午後八時頃月見町新田前二六中山淺次郎方所有空家より放火し正に大事に至らんとしたのを發見三臺の自動車御筒を始め蒸氣御筒迄出動し風呂場を焼いたのみで八時半鎮火した原因は目下平署で取調中であるが同家は人氣のない空屋なので浮浪者の不仕末と見られるが放火との説も有力視されて居ると

横領局員

判決に不服

石城郡内郷村御野野菜商人太田三郎(七〇)が同村郵便局に勤務中自己取扱ひに係る簡易保險料千五百圓を横

調停法の内容が

漸く納得出來て

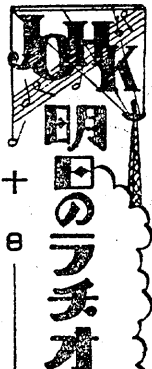
此頃では申立が減少した

平區裁判所に於ける本日迄の金錢債務調停申立件數は百九十二件に達したが實施當時は毎日一件平均にあつたものが今月に入つては今日迄に僅か二件である之れは要するに債務者が實施當時は申立さへすれば自己の思ふ通りになるものと誤解し

學年色別

磐中武道部

磐城中學校柔道部及び劍道



谷根貞 田邊南龍
後九三〇時報 ニュー
ス 氣象通報 番組豫告

明日の部

前二〇三〇 家庭講座
「花辨の害蟲と其の防ぎ方」下坂黒友三
後二〇五 浪花節 未定
後一、一〇五 大對馬
戰國大對馬、中大對馬
大「神宮球場より中繼」
後二、〇〇〇 家庭大學講座
部にては各生徒の武道用具に左の如き色布を附し一見して其の學年を知る事になつたと
一年赤 二年青 三年紫 四年黄 五年黒

桑葉不足を告げ

一駄三圓から三圓五十錢

郡下各農村の春蠶は經過至極順調で早きは十二三日頃に上簇の豫定であるが掃立の増加と達蠶減少等の關係より桑葉は各村共不足を告げしかも繭價の昂騰を見越される結果桑相場一駄三圓から三圓五十錢を唱へられ
磐女校を視察 双葉中學校教諭田中保雄氏は本日午前八時五十分着にて來平磐女に於ける教授方法其他の視察をなした

當選御禮

今回の改選に際しては御援助に依り當選致候段厚く御禮申上候今後一層村政の爲めに最善の努力可仕覺悟に御座候間何卒將來共不相變御交誼願上度先は不取敢以紙上御厚禮申上候
六月九日
内郷村
加藤 丈夫

幕末剣道

第三百六十席

物外と近藤勇

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

【禁轉載上演及映畫】

獅子の力を見たか

物外は新撰組の人々が剣道の稽古を致して居るを武者窓から見て居た、だけが高いから目に付きます、一人若い侍が出て来て侍『これ坊主、これ入道何で貴様は道場をのぞいて居る』

物『イヤお前は何か』

侍『何んだとは何んだ』

物『イヤわしを坊主と申すお前は何かだ』

侍『貴様は此處をいづれだと思ひ居る、新撰組の屯所であるぞ、あの門に無用の者入るべからずとしたためであるが見へなんだか』

物『イヤわしは用事あつて門を入つた』

侍『何う云ふ用事だ』

物『剣術をつかひ居るを見るために入つたぞ、さすれば無用な者ではあるまい』侍『大變な坊主だな、貴様は我々の稽古を見てあんなことで人が斬れるかと申したが貴様は少々は剣術の心得があるか』物『少々はないよ澤山はある』侍『オヤ此坊主喧嘩を賣り居るな』物『賣る譯ではない』

の云つた事を喧嘩を賣るものと思ふなれば買ふがよからう、元値限り安く賣つてやるぞ』侍『これへはいれ坊主、イヤ坊主』物『坊主々々と申すな然し



はひれと云ふなれば道場に通つてやる』侍『これへ參れ』物外を連れて道場に來た侍『此入道は我々の稽古を見て笑ひ居つた剣道の心得があるかと問ふたら少々は

ないが澤山はあると申したねむけざましに坊主を打倒してやらう、さあ坊主相手をしろ』物『望とあらば相手もしてやるが貴様はいかぬな、見たところでは下手さうだ、出來るならば相手にして氣がのらぬ三人かたまつて出ろ』

これを聞くと若侍が不らちなり此の坊主したゝかに打ち据ゑて青い息を吹かしてやらうと竹刀をとつてそれへ進みしは、物外を引き入れた若侍侍『坊主得物を持って』

と云ひつゝ、兩の手にこぶしを固め左の腕をグイと前に出し、右を腰にあて、それまゐれつゝと聲をかけたおのれ此の入道め、と正面から打ち込んだ、物外はヒラリツと身をかはしてバツと手許に躍り込みエイと氣合をかけたが左のこぶしで胸をドーンと突いた、五六間ポーンと飛んで行つてバタリと倒れた、物外はヒラリと飛びさる物『何うだ兎、獅子の力を見たか』

イヤ若侍驚いた、其時武者だまりよりそれへ下りたは三十三になる大兵な武者家武『坊主味をやり居るなさあ俺が相手をしてやる』物『アハ、お前は出來さうだな、今出た兎とは違ふ、處でお前を相手にすることになれば俺も得物を用ゐる』武『何んなりとも持て俺の得物はかう云ふ物だ』と云つたが武者溜りに立てかけてあつた樫で造りし筋鐵入り八角に削り上げた六尺棒を持つて來て武『イヤ坊主、これを受け損ずるとその體はくだけるぞ』と云つたが此の人物は新撰組の小頭にて山崎丞と云ふ者にて鹿島流の棒の達人今迄此の棒で攘夷を口にして幕府の施政上に反對した人々をこの棒で三十人も打殺してゐる、此折物外は腰に差してあつた紫檀にて造りし長さ一尺三寸の扇の形をした得物を取り出し物『コレにて相手をしてやる、それまゐれ』

市原醫院

平町田町
電話一四四番

外花柳科専門

木村外科醫院

自炊入院の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九

貸切の●●●

御用命は!!!

獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……(マツサキ)

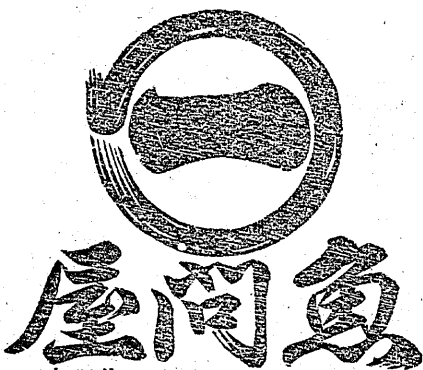
三九二タクシーへ!!!

咽喉専門

入院
應需
平町田町七〇番地
山内醫院
醫學士 山内亨吉
電話六九一

鯉節漬

うに鹽にか焼



魚問屋

店代理平命生本日本最大最優最
榮盛賀志
(三一電)目丁四平